

宮本万感「倍返し」

スキー国体V

【富山県で本社取材班】「やっと岩手に恩返しできた」。17日に同県南砺市で行われたスキー国体大回転成年男子Bを制した宮本慎矢(27)＝盛岡市、三田商店＝は万感の思いで仲間の祝福を受けた。活躍が期待された2016年岩手国体の直前に大けがを負った苦勞人。困難を乗り越え、ついに輝いた。

【本記1面】

ゲレンデに本県チームの輪ができた。「おめでとう」。ゲレンデに響き渡る祝福の声に、輪の中心の宮本は満面の笑みで応えた。

北海道士別市出身。中央大3年時に全日本学生選手権(インカレ)回転を制した実力者だ。学生時代から国内外を転戦して経験を積む。16年2月の岩手国体に向けて競技力強化を期待され、本県の選手となった。

だが、岩手国体を2月に控えた15年11月。悲劇が襲う。遠征先のイタリヤで大回転の練習中、ポールに足を引っかけて転倒。左足の前十字靭帯を断裂した。国体の出場はかなわず、長期離脱となった。

「せつかく岩手に来たのに申し訳ない」と失意の日々を過ごした。けがから復帰後、優勝を目標に国

「やっと恩返し」 本県開催時 断念で負傷

体に出場するも17年7位、18年15位、19年途中棄権。表彰台は遠かった。悔しさを胸に鍛錬する宮本を三田商店は冬期間、スキーに集中する環境を整えて後押しした。

迎えた富山国体は年齢区分がB(27〜34歳)に移り、初の大会。過去のことは意識しすぎず、滑りに集中した。フィニッシュラインへ挑む。



本県チームの仲間から優勝を祝福される宮本慎矢(中央)＝17日、富山県南砺市・たいらスキー場